



体験誘発の教材モデル 「最上川丸ごと体験ミュージアム」 ～源流から河口まで～



ねらいとコンセプト

体験誘発モデル（子どもの参加が教材になる）
「体験ミュージアム」活動の普及啓発
大人が作る教材と子どもが作る教材の違い

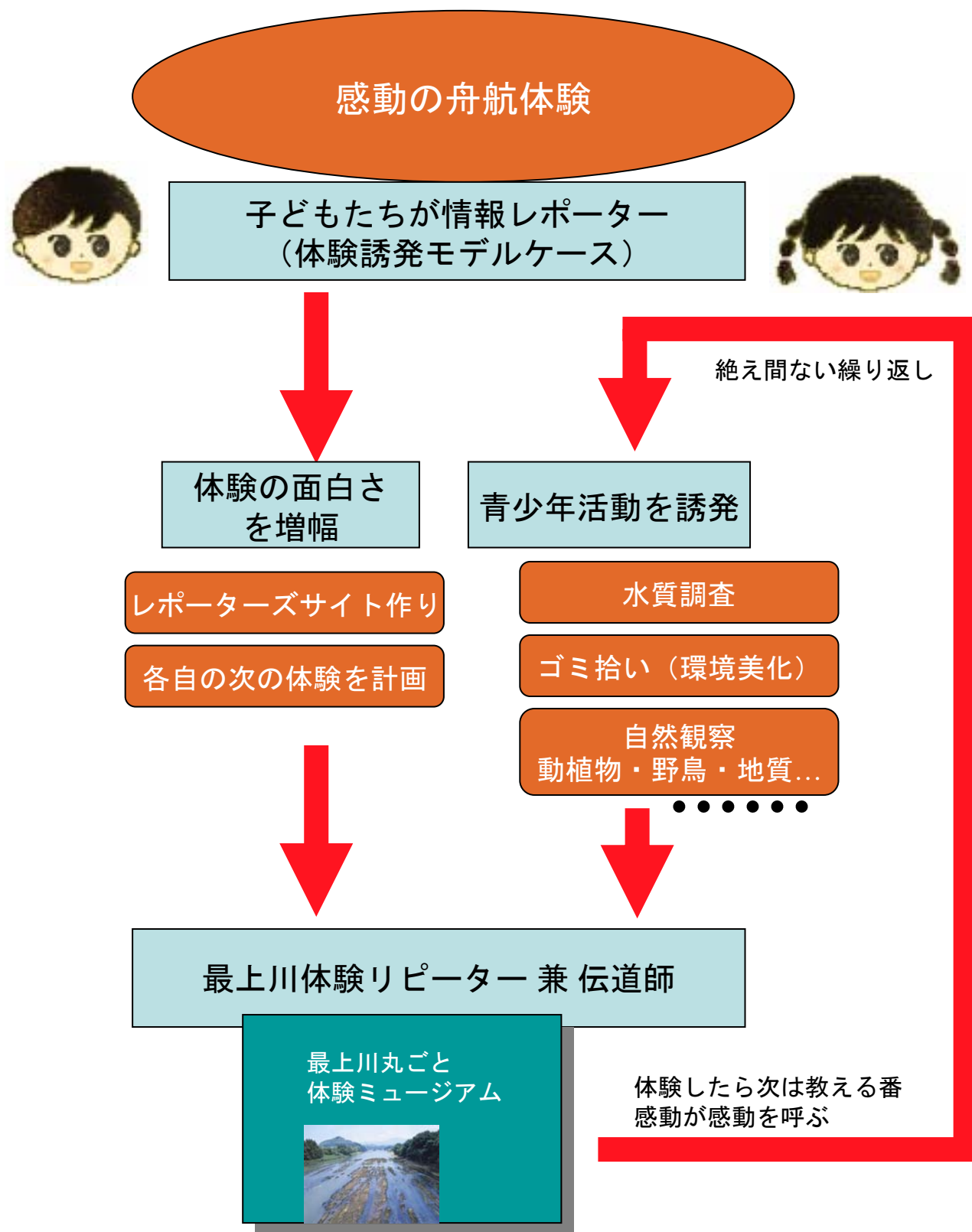
教材作りのデザイン

上流から河口まで「舟航体験」
取材体験活動の区間と利用する船
子どもが主体で「体験ポートフォリオ」
感動体験を最上川にマッピングしよう

システムの特徴

最上川データを送ろう（平易な操作性）
GPS付き携帯電話で現地からアップロード（感興性）
体験の記録がもたらす効果

最上川丸ごと体験ミュージアム ～源流から河口まで～



「体験ミュージアム」活動 の普及啓発



最上川体験リピーター 兼 伝道師

最上川丸ごと
体験ミュージアム



子どもが主役
体験活動＋コンテンツ

どこでも実践できる体験誘発モデル
教材（具体例）とシステムを無償提供



山形県内に向けて

全国に向けて

それぞれの地域で
体験活動＋コンテンツ開発

大人が作る教材と子どもが作る教材の違い

大人が作ると...



- 超えられない大人の限界
- 一方的になりやすい...

知識も深く広い

一方的な教材になる

コンテンツは成長しにくい

子どもが作ると...



- 同世代の興味を誘発する目線
- 体験そのものを教材にもできる

実世界の写像空間
(記録するものはファクトデータ)

反復的な学習プロセス
→ 知識を育む

体験誘発が進むと
教材が際限なく増大し続ける



大人は支援役にまわって...



子どもが主役

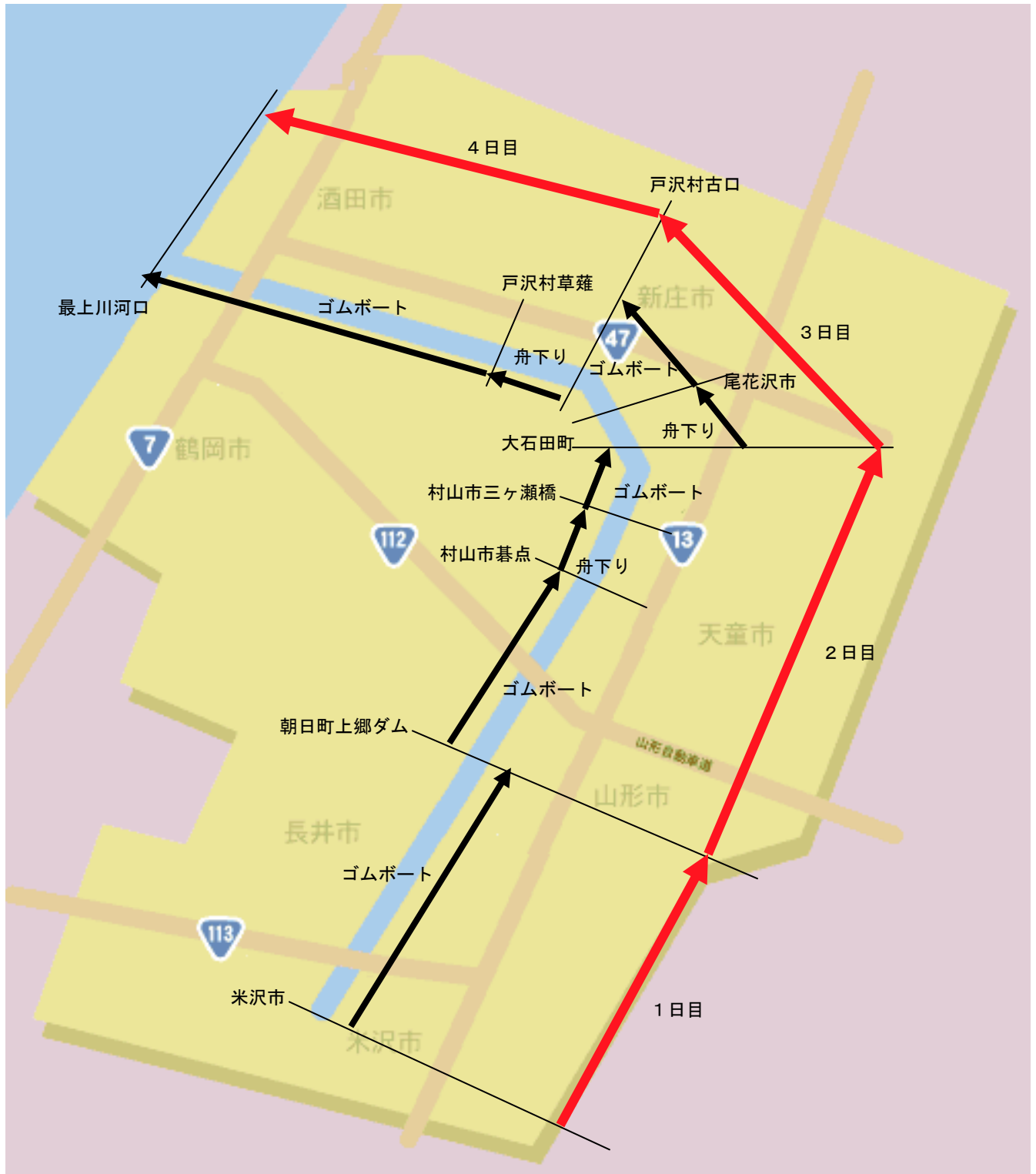
既成の教材のあり方の修正

- 教材は与えるものという発想から転換する
- 実社会の写像空間は「発見」を育む環境となる
- コンテンツ生産を促す方法論+ツールが重要

期待される効果

- 体験と知識を育む循環が導かれる
- 主体性を育む学習の姿勢が導かれる
- 体験を支援すると教材ができる=発想の転換

上流から河口まで「舟航体験」 (取材体験活動の区間と利用する船)



子どもが主体で「体験ポートフォリオ」



体験を記録する意味

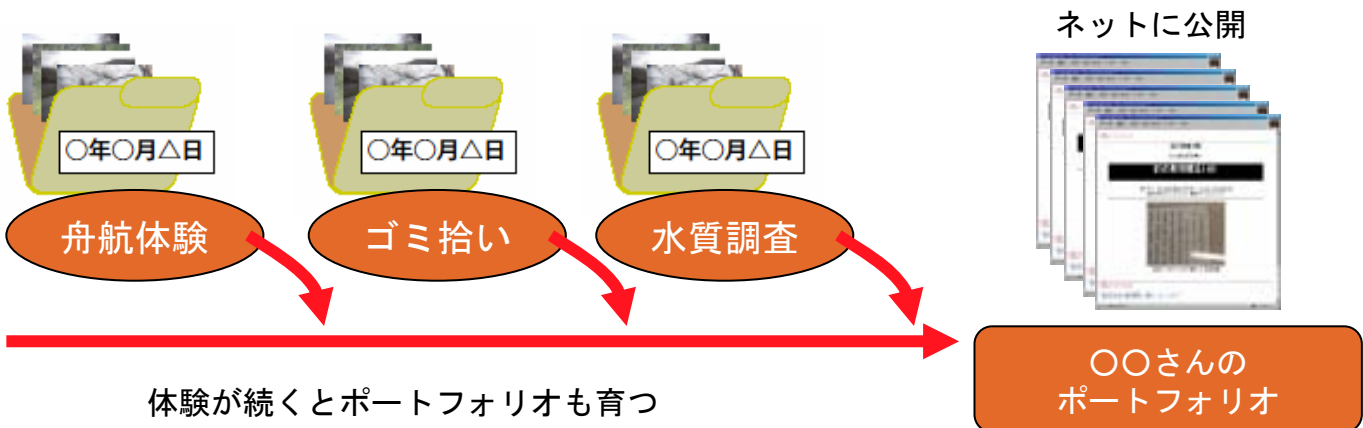
「体験」を「記録」して持ち帰り自分で体験を振り返ることで、体験の意味が見えてきます。自分がレポーターになって「体験ポートフォリオ」を作ることで、興味が誘発され、次の「体験」につながっていきます。

体験ポートフォリオ

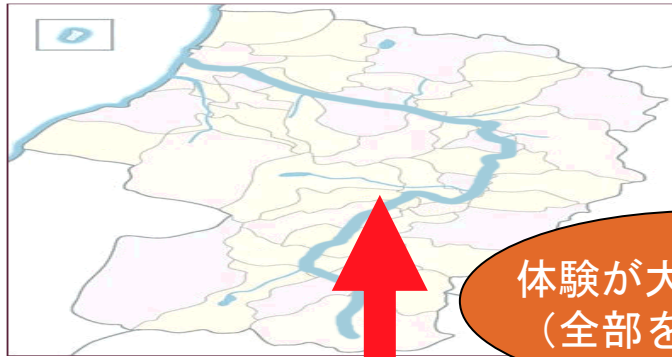
同じ体験でもその捉え方や感動が違う。皆の「体験ポートフォリオ」ができると、他の人のよいところが見えて自分に対する刺激になります。ネットを通じて、「子どもたちの最上川」を作ることができます。

体験ポートフォリオ

体験は画像やビデオに撮ってどんどん入れよう！

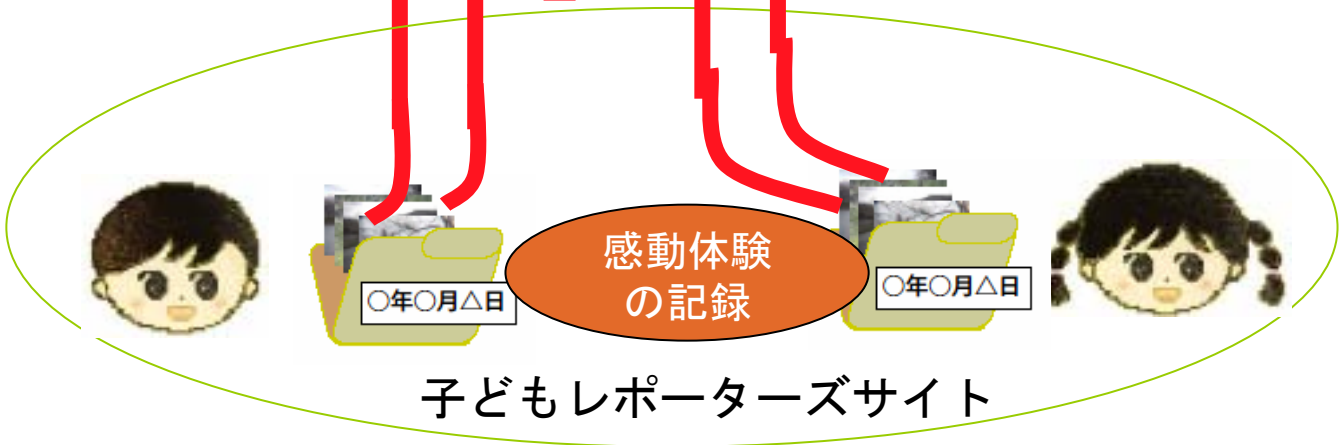
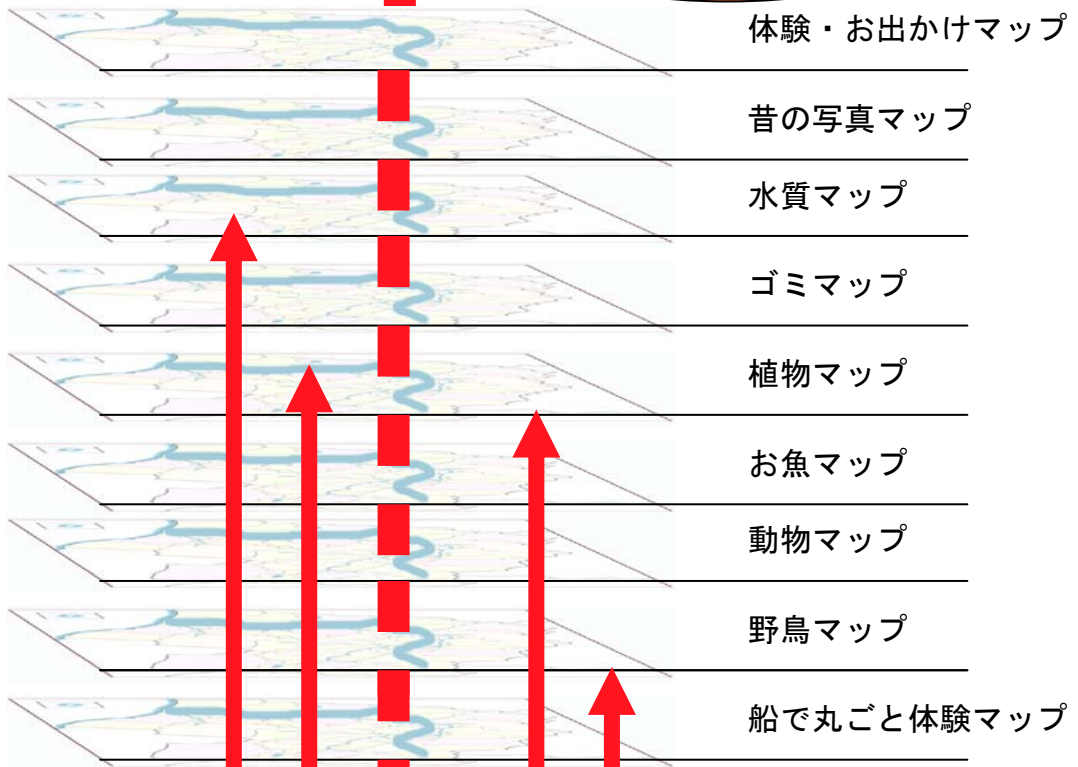


感動体験を最上川にマッピングしよう



最上川マップ
(ポータルサイト)

体験が大きく束なる
(全部をくしざし)



最上川のデータを送ろう

My Page 花笠太郎さん

送るデータ

データを選ぶ

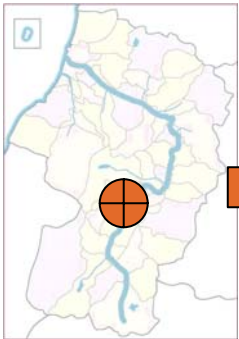
これをアップロードします



C:\マイピクチャ¥040122¥DSC0213.JPG

場所を教えてね

場所を間違えたら、左から選びなおそう。



中山町長崎周辺



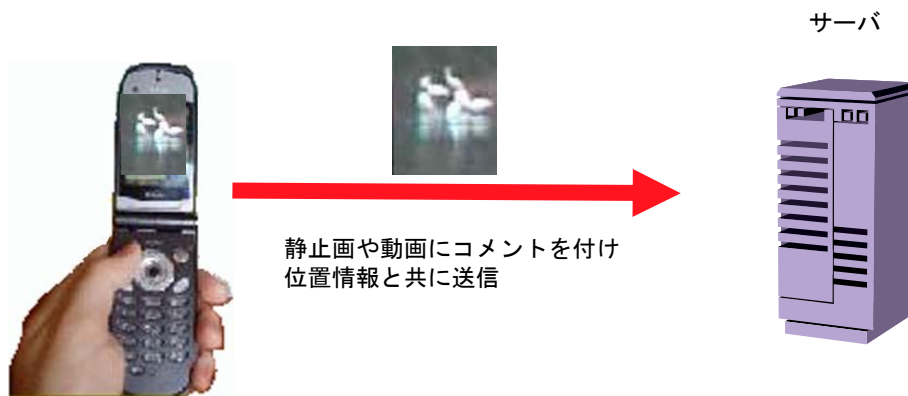
中山町小塩

情報を書こう

タイトル	オオハクチョウ
日付	2004 年 12 月 22 日
コメント	ゴミ 植物 お魚 動物
どのマップ?	野鳥

アップロード!

GPS付き携帯電話で現地からアップロード

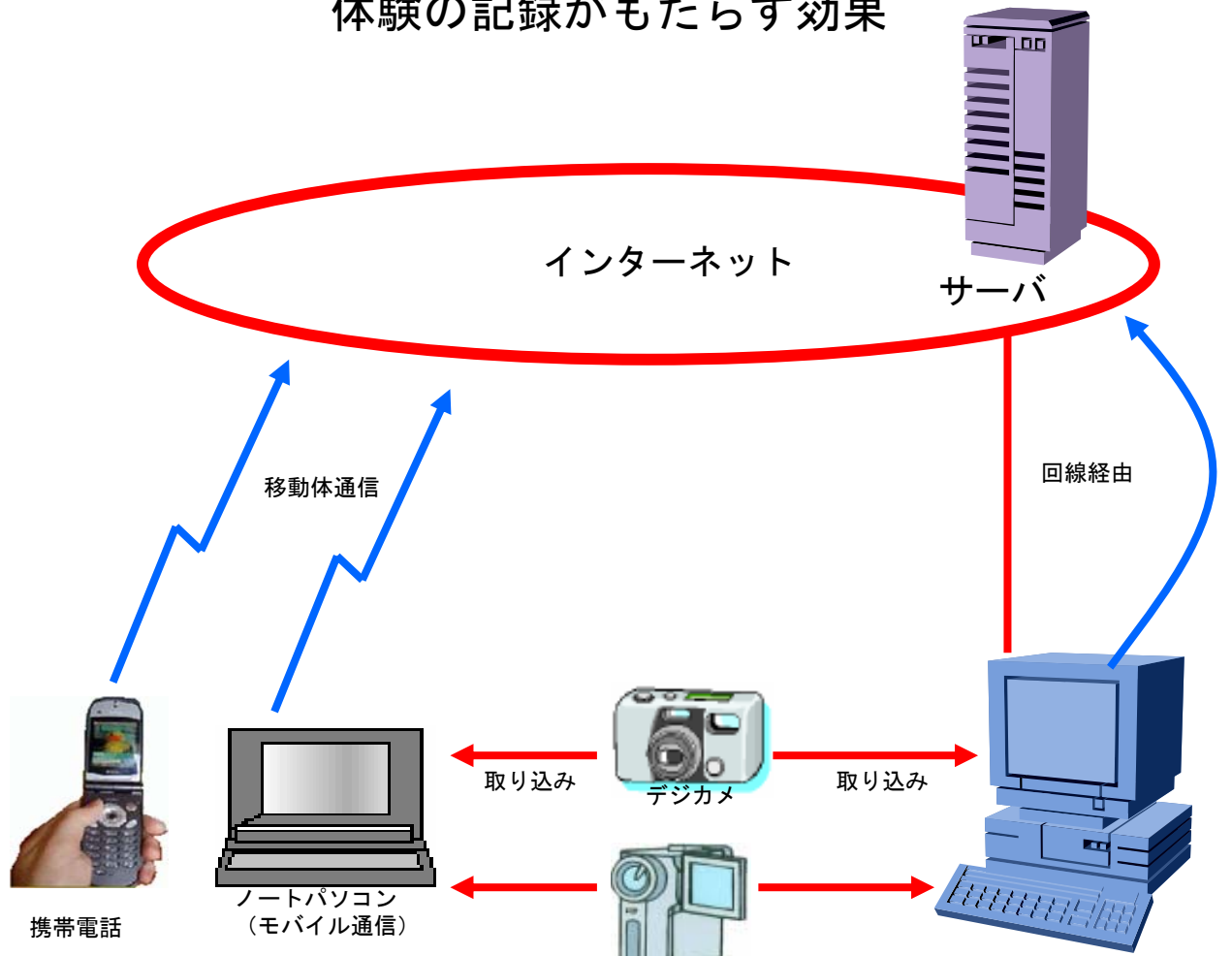


● 携帯電話用簡易入力マップ

GPS付きでない場合は地図を選択して位置情報を代替する



体験の記録がもたらす効果



感興を増幅

現地から直接

体験を反芻



感動を熟成

家に持ち帰って



自然体験が感動の源

親子のコミュニケーション
自分(興味)との対話